

[参考資料]

明治時代以降の登山記録に基づく岩手火山及びその西方地域における噴気活動変遷
 -薬師岳山頂部, 大地獄谷, 姥倉山～黒倉山稜線部, 網張元湯-

1. 解析方法

各種の図書・雑誌(市販雑誌, 山岳会機関誌, 個人出版物等)に掲載されている岩手山およびその西部を対象とした登山記録から, 4つの地域(薬師岳山頂部, 大地獄谷, 姥倉山～黒倉山稜線部, 網張元湯)毎に噴気活動の記述を抽出した。収集した記録は, 現地の状況を具体的に記述されているものほか, 定性的な記述に過ぎないものまで多様であることから, 一般登山者による定性的な観察により検知される事柄を元に, 活動性のランク付け指標(第1表)を作成した。これに基づき, 明治時代以降約150年間における, 地域毎の噴気活動の変遷をまとめた(第1図)。

第1表. 登山記録に基づく噴気活動のランク付け指標

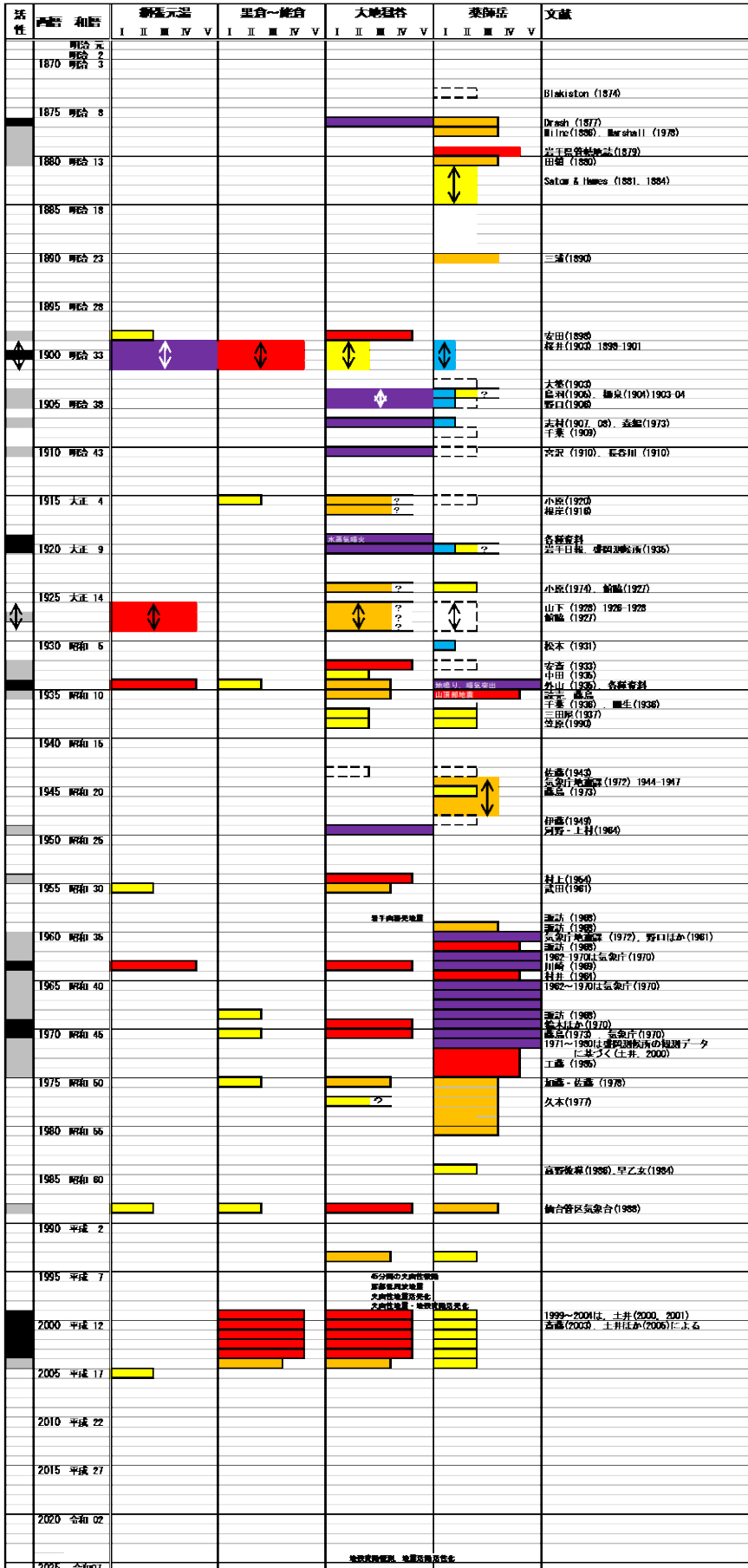
	I	II	III	IV	V
視認	みえない	近傍で, うっすらと見えることがある(天候による)	近傍でも, 天候により見えないこともある	天候によらずはっきり見える	遠方から見える
分布	みえない	やや広い範囲に分布することがある, 噴出口がわかりにくい	噴気地点の数・範囲が増大傾向(温度に関わらず, 拡大傾向の認知)		
勢い	みえない	湯気が立ち上る	白煙がゆっくりと立ち上る	白煙が噴き上がる	噴気音が聞こえる
温度(人感)	無	ほかほか	瞬間的に高温を感じる		
温度(機器)	気温	沸点以下	沸点	沸点以上	300℃以上
地熱	外気と同様	寝転がると, ほかほか暖かい	(噴気孔が明確な場合周囲の地面は特に熱くない場合が多い)		
硫黄臭(H ₂ S臭)	なし	におう(どこからか漂ってくる)	(噴煙が上昇するために周囲では匂わない場合が多い, 噴煙内に入ると匂う)		
硫黄	なし	なし	噴気孔周辺に(新鮮な)黄色い硫黄が付着していることがある	噴気孔周辺に(新鮮な)黄色い硫黄が付着	硫黄は付着しない

2. 結果

岩手山からその西部地域においては, 十年～数十年スケールで活性期と沈静期を繰り返している。特に広域的な活動の活性化には2つの様式, すなわち(A) 薬師岳から網張元湯に及ぶ広い地域での活性化が認められる時期(1932年(昭和7年)～1936(昭和10)年, および, 1963(昭和38)年前後), と, (B) 薬師岳では活性化が確認されないが, 大地獄谷～岩手山西部において噴気活動の活性化が認められる時期(1900(明治33)年前後, 1999(平成11)～2003(平成14)年), が存在する様である。

以上

岩手山



凡例

- 噴気活動ランク I (Blue)
- 噴気活動ランク II (Yellow)
- 噴気活動ランク III (Orange)
- 噴気活動ランク IV (Red)
- 噴気活動ランク V (Purple)

※ ランク区分の基調は別表を参照

- 噴気活動の記述が無い (悪天候時の山行を除く)
- ランク II 以上の可能性有り
- ランク III 以上の可能性有り
- ランク区分・観察年が不明
- 観察年が不明
- 可能性のある範囲を矢印で示す
- ランク区分が不明瞭な記述
- 極端な活発化 あるいは、特に顕著な活発化が認められる時期
- 活発化が認められる時期

第 1 図. 岩手山及びその西部地域の噴気活動の変遷